



阿佐谷営業所内。電車で事故が起きた時に振替輸送をする際にも、車輛への連絡が一斉に出来るようになり大変便利になりました

田中電気のお客様紹介 「関東バス」様

J R阿佐ヶ谷駅から南へゆるい坂を登ること約10分。バスがズラリと並ぶ関東バス阿佐谷営業所様を訪問しました。

昭和6年に創設され、J R中央線の新宿駅から武蔵小金井駅を中心に城西地域を372両の路線バスが運行しています。阿佐谷営業所、武蔵野営業所、青梅街道営業所、丸山営業所、五日市街道営業所。その各車輛に昨年平成18年より、800MHz帯デジタルMCA無線システムを現在までに約280台を導入していただきました。

MCA無線システムを導入してから、『乗務員が営業所と繋がっているという安心感が持て、より安全性の高いサービスを提供できるようになりました』との、嬉しいお声をいただきました。



音声もクリアで、操作もただ押して話すだけなので簡単です

◆路線バスの他、観光バス、空港連絡バスの営業もされています。
お問い合わせ 03(3371)7111

田中電気の社員紹介 『今月のこの人』



モバイルビジネス本部
ドコモショップ勤務
大久保 沙也香

『趣味は音楽でレゲエが大好きです。この夏はサーフィンを始めます』入社4年目の大久保さんからみた田中電気はみんな優しい人ばかりですとのこと。お休みの日はスポーツジムに通って夏に向けて準備中です。『904シリーズが新登場します。番号とメールアドレスが1台でそれぞれ2つもてるので、ケータイを2つお持ちの方には是非オススメです。』

●MCA無線機器システム導入のきっかけは？

『災害や非常時の緊急対策として導入しました。無線機器は、一斉通信が出来るので、非常用以外にも車輛内に忘れ物があった場合など、各営業所に一斉に連絡が出来て大変便利になりました。』

その他、事故情報や道路の混雑状況、突発的な工事の連絡など、全車両に同時に連絡ができ緊急時以外でもとても重宝し今では手放せません。』



関東バス(株) 運輸部
運行管理担当 高屋副部長

何でもお気軽にお問い合わせください

(記事に関する事や、田中電気へのご質問・その他ご相談など)

0120-118-772 または info@akihabara-factory.com まで

秋葉原ファクトリーは田中電気のお客様のための窓口です

アキバにこんなところあったんだ！ 『ヤマギワLIVINA（リビナ）』



◆お知らせ

田中電気『CREDO～クレド～』を作成しました



クレドとは？ラテン語で「志」「信条」「約束」を意味する言葉で、最近では「企業理念」を表わす言葉として定着しています。自社の存在意義、仕事への誇り、社会に貢献している意識を盛り込み、経営の価値観を形にしたツールが「クレド」です。四つ折りの手のひらサイズで、財布や手帳などに入れて持ち歩き、全社員が常に行動指針を確認することができます。

田中電気のクレドには、『情報の安全、確実な伝達を通じて社会に安心を提供します。』との経営理念などが書かれています。更にお客様へのサービスの向上を目指します！



ハイセンスなインテリアショップ

地下1階から5階まで、広々としたフロアには照明をはじめ家具、食器や雑貨など住まいに関するあらゆるものがお洒落に並んでいます。ここでしか買えない海外ブランドも多数。

1Fにはデンマークのオーディオブランド『バングアンドフセン』も充実しています。場所は、昌平橋交差点付近です。

千代田区外神田1-5-10

TEL:03-3253-5111

11:00～19:30 平日

10:30～19:30 土・日・祝日

江戸の歴史

『寛永寺』

シリーズ No. 6



江戸にあった徳川家の菩提寺のうち、増上寺は中世から存在した寺院でしたが、寛永寺は徳川家により新たに建立された。元和8年（1622年）、江戸幕府2代将軍徳川秀忠公と、当時の天台宗の高僧・天海大僧正は一大寺院の建立を発願しました。

秀忠の隠居後、寛永2年（1625年）、3代将軍徳川家光公の時に今の東京国立博物館の敷地に本坊（寺僧の住坊）が建立された。この年が創立年とされています。当時の年号を取って「寛永寺」とし、京の都の鬼門（北東）を守る比叡山に対して「東の比叡山」という意味で山号を「東叡山」としました。

寛永寺は徳川歴代の将軍15人のうち6人（家綱、綱吉、吉宗、家治、家斉、家定）が眠ります。もとより諸大名の帰依を受け大いに栄えました。承応3年（1654年）、後水尾天皇第3皇子（守澄法親王が入寺して以後は、代々皇族が門主を務めた。門主は「輪王寺宮」と尊称され、日光山、比叡山の山主をも兼務して絶大な宗教的権威を持っていた。現在の上野公園のほぼ全域が寛永寺旧境内であり、最盛期には、今の上野公園の2倍の面積の寺地を有していたというから、その規模の大きさが想像できる。

上野の山は、幕末の慶応4年（1868年）、彰義隊の戦場となったことから、根本中堂をはじめ、主要な堂寺は焼失した。この戦いで焼け残り、第二次世界大戦の戦災も免れたいくつかの建物は、現在の上野公園内の各所に点在している。

（歴史の散歩道参照）

ちなみに上野の西郷隆盛は、「天性優れた男でも気性が太くて思い切りが良いため危険の心配がある。こういう人間は普通の者以上に書物を読んで心魂を陶冶する必要がある。陶冶しすぎると何事に対しても迷ってばかりいる人間になるような者はもともとぐずで、書物を読まなければ阿呆で終わってしまうものだ。すぐれた気性のある者は、書物を読む事によって判断が正確になるものだ。」と教えている。